



愛石の産地として有名な瀬田川

## 何処にでもある石は 何処にでもない石

博物館で展示する石といっても、宝石や貴重な鉱物、といったものではないかもしれません。このギャラリー展示では河原などでみる石や岩石、いわゆる石つころと呼ばれるようなものを対象としています。こういった「ただの石」と思えるものでも、家の周りや河原の石を集める子どもたちもおられます。そ



愛石。上を亀、下を鶴に見立てて、それぞれ宝亀、双鶴という銘がつけられている（大津愛石会の中村豊美さん提供）

れは石がもつ何とも言えない不思議な魅力を感じ取るからかもしれません。また、よく見るとその形や色など一つとして同じものはないという当たり前とも思えるような不思議さがあるからかもしれません。それとも、その形や雰囲気から山など何かに似ていると感じることからでしょうか。古くからある日本の芸術文化の水石や盆石などは、こういった石の魅力を感じ取るものです。水石については村田圭司さんが「水石とは一個の自然石で山水景情の雅境に心を遊ばせようとするもの」と述べています。こういった日本のわび・さびともいえる世界を楽しむ人々は、すべての石ではないにしても石を愛してやまないのかもしれない。



高師小僧（たかしこぞう）。滋賀県では日野町別所が有名。別所には石碑が建っている

石を使った遊びに囲碁があります。囲碁で使う黒の碁石の高級なものでは和歌山県的那智黒石が有名です。そういった部屋でする遊び以外にも、石を使って遊んだ記憶はありませんか？湖岸や海岸、広い川の河原に行くと、そのあたりにある石を拾って、石を水切りに投げたり。あれは割合に平たい石を使ってやるとうまくいくようです。が、私も何段まで飛ばせるかを競ったりした経験があります。もちろんそういった遊びをするときには周りに気を付けたいといけません。他に、柔らかい石や白い石で他の石に絵や文字を描いたり、砂に絵を描いたり、広場で石を見つけてケンパをするなどもありま

## 石で遊んだ記憶

んの著書にもまとめられています。たしかに、高師小僧（滋賀県では日野町別所が有名）などは、その形の奇妙さからか妙に引きつけられ、愛おしくさえ感じる方もおられるでしょう。



# 楽石注意!

Don't enjoy the stones too much!

## 石の愛し方・遊び方・楽しみ方

これは、平成16年の1月から行われるギャラリー展示のタイトルです。このギャラリー展示では、石をいろんな側面からみて、その面白さを紹介しようというものです。

妙なタイトルだと思われるかもしれませんが、「楽石」は文字通り石を楽しむという意味で、タイトルは石の楽しさを知ってしまい楽しみすぎることに注意してください、という意味を込めています。



学芸員 里口 保文  
（層序学）  
やぶの中で調査の話をする筆者



石を使ったあそび。アフリカの「マンカラ」。日本でも行われている

す。石を使った遊びは、世界中に似たものを含めてたくさんあるようです。

### 石は身近に

私たちの周りには、いろいろな石があります。たとえば、垢擦りに軽石が使われたり、コンクリートの原料として石灰岩を使っています。石材としての石は大理石などの化粧材がありますが、こういった石材は外国産が多いのですが、三宅正弘さんが石垣の石は昭和30年頃までは近隣で調達していたと述べているように、古い町並みの石垣などにはその地域の石をつかっていることが多いです。たしかに、湖東町横溝地域に伝わる亀甲積みという積み方で積まれた石垣には、近隣で産する花崗斑岩などが使われています。もう少し大きなものに目を向けると、安土城

は壮大な石垣が残っていますが、これらは中井均さんによると9割以上が湖東流紋岩類でできているそうです。湖東流紋岩類は安土城の付近にも分布する約7000万年前に大規模な噴火をおこした火山活動に関係する石です。こういった石垣を見ることで、地域に分布する石を知ったり、その歴史に思いをはせたりするのも楽しみの一つではないでしょうか。石垣以外にも、石の灯籠、石仏や墓石など、まわりにたくさん石があります。また山の巨石そのものが信仰の対象になっていたりすることをみると、白水晴雄さんが石を神体として崇拝することは古くから行われてきたと述べているように、私たちは石に対して特別な想いを持っているのかもしれない。水口町の山村神社にまつられる願掛け石もそういった一つでしょう。



軽石。火山噴出物で、足の裏の垢擦りなどに利用される

### 石から大地を知る

地学的に石を見ると地球がどんなふうになっているのかや地球の歴史が見えてきます。本などからそういったことを知ることもよいのですが、実際に石をみて岩石の種類から地域の地盤のことを知ったり、薄く削って顕微鏡でみたりして研究をすることで、地球の歴史について考えてみると、また違った石の見え方ができます。

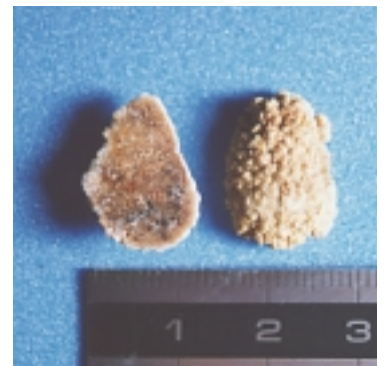
最後に、もっと身近に石を感じる時の話。人は腎臓結石などのように体の中に石を作ってしまうことがあります。くれぐれもご注意ください。

#### 参考図書

- \* 1 村田圭司(2003)現代水石の領域、愛石の友、全日本愛石協会、石乃美社 P.12



湖東町横溝の石垣。“亀甲積み”と呼ばれる積み方で積まれている



人が体内に作る石。腎臓結石

- \* 2 益富壽之助(1967)石 昭和雲根志(再版2002)、白川書院 P.250
- \* 3 大貫美佐子・監修(1998)国際理解にやくだつ「世界の遊び」1〜7、ポプラ社
- \* 4 三宅正弘(2001)石の町並みと地域デザイン 地域資源の再発見、学芸出版社 P.174
- \* 5 中井均(1997)近江の城 城が語る湖国の戦国史、近江文庫9、サンライズ出版 P.200
- \* 6 白水晴雄(1992)石のはなし、技報堂出版、P.214

#### ギャラリー展示

## 楽石注意!

### 石の愛し方・遊び方・楽しみ方

期間:平成16年1月14日(水)~2月22日(日)

場所:琵琶湖博物館 企画展示室

(担当学芸員:山川、里口、高橋、宮本)